

# 第71回広島県高等学校総合体育大会

## ・競技別実施要項【空手道】

### 1 種目 8種目

団体組手（男・女） 団体形（男・女） 個人組手（男・女） 個人形（男・女）

### 2 日程・会場

《日程》

第1日 5月26（土） 8：00 開館

8：20 広島地区高校集合（会場準備）

9：00 監督会議，審判会議

10：00 開会式

10：30～18：00 競技

第2日 5月27（日） 8：30 集合

9：00～16：00 競技・閉会式

《会場》 広島県立総合体育館 剣道場

〒730-0011 広島市中区基町4-1 082-228-1111

### 3 参加資格，参加制限

① 「第71回広島県高等学校総合体育大会要項 3参加資格」に準じる。

#### 【第71回広島県高等学校総合体育大会実施要項 2参加資格】

- (1)選手は，広島県高等学校体育連盟規約第5条に規定する学校に所属する生徒で，本競技実施要項により，大会の参加資格を得たものに限る。
- (2)年齢は，平成11年4月2日以降に生まれたものとする。  
ただし，出場は同一競技3回までとし，同一学年での同一競技出場は1回限りとする。大会参加資格を満たし，日程等が重ならない場合は複数競技の参加を認める。「出場とは登録やエントリーではなく試合への出場回数をさし，専門部が責任を持って調整・確認する。」
- (3)チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (4)統廃合の対象となる学校については，当該校を含む合同チームによる大会の参加を認める。
- (5)転校・転籍後6ヶ月未満のものは同一競技への参加を認めない（留学生もこれに準じる）。ただし，一家転住などやむを得ない場合は，県高体連会長の許可があればこの限りではない。
- (6)出場する選手は，あらかじめ健康診断を受け，在学する学校の校長の承認を必要とする。
- (7)各競技専門部の特質により，別に定める参加資格をもうけることがある。
- (8)参加資格の特例による参加については，広島県高等学校総合体育大会開催準備要項のとおりとする。

②出場制限は次のとおり

種 目	出 場 制 限	
男子団体組手	1校1チーム（正選手5名，補欠3名）	
女子団体組手	1校1チーム（正選手5名，補欠3名）	
男子団体形	1校2チームまで（正選手3名，補欠3名）	
女子団体形	1校2チームまで（正選手3名，補欠3名）	
男子個人組手	各校5名	ただし，組手は前回大会でベスト8に入賞している学校については，1名の増を，形についてはベスト8に1名いれば1名の増，2名いれば最大2名までの増を認める。前回ベスト8入賞は【資料】1に後掲。
女子個人組手	各校5名	
男子個人形	各校3名	
女子個人形	各校3名	

③団体組手は3人以上であれば出場可能。

④外国人留学生の参加については，団体は正選手の過半数を超えない範囲で出場を認める。個人については参加制限なし。

⑤参加選手の他にマネージャー1名，コーチ1名の参加を認める。

⑥合同チームの参加を認める。申込み時に希望すること。ただし合同の組み方は事務局に一任する。

4 競技及び採点方法

①組手・形競技はトーナメント制で行う。ただし形について，予選は得点方式で決勝トーナメントはフラッグ方式のトーナメント制で行う。

②予選・決勝で選ぶ形については全国高体連のルールに準ずる。

5 競技規則

組手・形競技の運営は，全国高体連空手道部競技規定ならびに申し合わせ事項（後掲【資料】2）による。

6 申込み

(1)申込締切日 平成29年5月7日（月） メールおよび郵送で申し込むこと

(2)申 込 先 〒731-2198 山県郡北広島町新庄848  
 広島新庄高等学校 川口健司  
 電話 0826-82-2323 FAX 0826-82-3273  
 Eメール [kawaguchi@shinjou.jp](mailto:kawaguchi@shinjou.jp)  
 （メールはエクセル仕様でお願いします。）

(3)宿 泊 各学校ごとに顧問の責任において申し込むこと。

(4)事故の処理 応急処置は大会会場で行うが，その後は各校で行うこと。

各校で任意の傷害保険に加入しておくことが望ましい。

7 組み合わせ

日 時：5月11日（金）14：00

会 場：ひまわりプラザ（安芸郡海田町）

参加者：専門委員（プログラム編成委員）

## 8 備考

- ① 大会は「平成 30 年度全国高等学校総合体育大会空手道競技会」の予選を兼ねる。
- ② 大会役員には、5 月 26 日、5 月 27 日の昼食を準備します。
- ③ 顧問の引率のない学校の出場は認められません。
- ④ 弁当がら等のゴミは、各自・各校で責任をもって持ち帰ること。
- ⑤ 前回優勝校は、優勝旗の返還をお願いいたします。
- ⑥ 全国高等学校総合体育大会空手道競技の部への出場権は以下の通り。  
個人組手 ベスト 2 個人形 ベスト 2 団体組手 第 1 位 団体形はなし

### 【資料】

#### 1. 個人枠増校（4 月の県選手権の結果による）

男子個人組手 1 名枠	
女子個人組手 1 名枠	
男子個人形 2 名枠	
男子個人形 1 名枠	
女子個人形 2 名枠	
女子個人形 1 名枠	

#### 2. 広島県高体連空手道専門部申し合わせ事項（県大会）

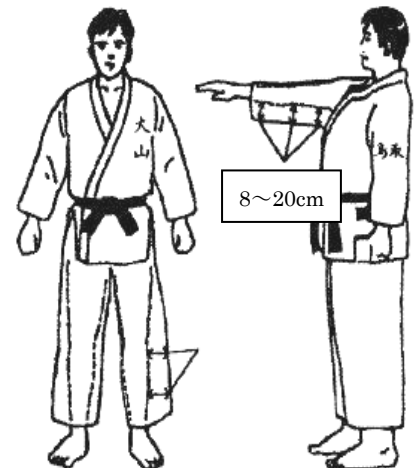
##### 1. 空手道衣などについて

- (1) 空手道衣は白無地一色とし、落書きやフチどりのあるものは禁止とする。
- (2) 帯の色は、白・茶・黒のいずれかとする。（競技では、赤・青色の帯を使用する。紐は使用不可）
- (3) ウエストを帯で締めたときの上着の長さは、腰を覆う程の長さとし、ももの中程までのものとする。
- (4) 上着の袖の長さは最長、手首までとし、肘から手首の間の中程より短くてはならない。  
また、上着の袖をまくり上げてはならない。
- (5) ズボンの長さは、少なくとも下肢の3分の2を覆う程の長さとし、踝が隠れてはならない。  
また、裾をまくり上げてはならない。

※（4），（5）は、「気を付け」の状態で行う。

- (6) 空手道衣の袖の空き、及びズボンの空きの寸法については、次の通りとする。

- ア. 上着の袖の空きは、袖全体にわたって、袖と腕との間（袖を片側に寄せた状態）が 8～20cm でなければならない。
- イ. ズボンの空きは、ズボン全体にわたって、ズボンと脚との間（ズボンを片側に寄せた状態）が 8～20cm でなければならない。



**2. 空手道衣の左胸に校名を入れ、その基準は以下のものとする。**

- (1) 1文字の大きさは、**5cmx5cm～7cmx7cm**  
(縦書で全体 **7cmx15cm 程度**)
- (2) 「高」の文字は必ずしも入れなくてもよい。
- (3) 文字は丸ゴシック・角ゴシック・行書・楷書の範囲とする。
- (4) 文字の色は、黒または紺とする。(ただし、スクールカラーはよい)

大  
山

**3. 空手道衣の左袖上腕部に県名を入れ、その基準は以下のものとする。**

- (1) 1文字大きさは、**5cmx5cm～7cmx7cm**
- (2) 「県」の文字はいれなくてもよい。
- (3) 字体・文字色については、上記2. の(3)(4)に準じる。

広  
島

**4. 出場選手の頭髪・服装などは、次の通りとする。**

- (1) 男子は、スポーツマンらしい頭髪にし、長くても「まゆげ」にかからず、「耳」が見え、「襟足」が見えるように整髪する。
- (2) パーマ・リーゼント・ソリ・ヒゲ・染色・脱色などを禁止する。
- (3) ヘアピンなどの危険物の使用および、リボン・鉢巻きを禁止する。
- (4) 女子の空手道衣の下は白無地のTシャツとする。(ワンポイント・校名は認める)
- (5) 競技者は手足の爪を短くし、相手に傷を与えるような金属または他のものを身につけてはならない。

**5. 負傷及び再発防止のための包帯、サポーター、テーピングの使用を、次の条件で許可する。**

- (1) 攻撃および防御強化のために使用してはならない。
  - (2) 相手に危害を及ぼすようなものを中に入れてはならない。
  - (3) 装着不備により、競技をしばしば中断させないこと。
  - (4) 色は、**白及び肌色の2色のみ**とし、清潔なものであること。
- ※あくまでも選手の安全と再発防止のため、軽度の傷害者を対象にしたものであり、常識を逸脱するような内容のもの及び重傷者の出場を許可するものではない。

**6. 形競技・組手競技ともにメガネ・コンタクトレンズ(硬)の使用は禁止とする。**

但し、ソフトコンタクトレンズの使用は、個人の責任において認める。

**7. 服装等の不備は1分間の猶予を与え、直らない場合は当該競技のみ失格とする。**

**8. 組手競技では、男子5点・女子4点の安全具を必ず着用する。(全国高体連空手道部指定)**

- (1) ニューメンホーVI, VII
- (2) 拳サポーター(赤・青) …赤・青のコーナーに合わせて使用すること。
- (3) ボディプロテクター …空手道衣の下に着用すること。ひもつきのものは首にかけること。

- (4) シンガード・インステップガード …空手道衣の下に着用すること。
  - (5) セーフティカップ(男子のみ) …空手道衣の下に着用すること。
  - (6) マウスピースの使用は任意で認めるが、色は**白色及び透明色のみ**とする。
- ※ 違反者の参加は**出場停止**(1分間ルール適用)

## 形 競技規定

### 1. 競技方法について

- (1) 個人戦・団体戦ともにトーナメント方式(フラッグ制)とする。
- (2) 予選は、「**第一指定形**」とし、得点制で個人8名、団体4チームを残す。  
決勝トーナメントは、「**第二指定形**」とし、フラッグ制で行う。  
準決勝は、団体戦は「**第二指定形**」、個人戦は「**得意形1**」。なお、決勝戦においては団体戦は「**得意形**」で分解あり、個人戦は「**得意形2**」とする。
- (3) 「**第一指定形**・**第二指定形**」及び「**得意形**」は空手競技規定(JFK平成22年度初版)の「付録7:指定形リスト」「付録8:得意形リスト」から選択しなければならない。
- (4) 団体競技は、**規定の選手数(3人)**を満たさないと成立しない。
- (5) 団体競技に於いて、**登録されたメンバーの枠内**で各回戦毎の選手交替は出来る。  
ただし、各回戦毎にオーダー票を提出すること。提出後の変更は認めない。
- (6) **選手の礼法**については、始めのお互いに「礼」は行わない。
  - a. 赤は、赤の呼び出し後に演武を開始する。赤の演武を終えて、青は、青の呼び出し後に演武を開始する。青の演武を終えて、双方は所定の位置で判定を待つ。勝敗の判定後に、お互いに「礼」、正面に「礼」をして退場する。
  - b. 名前(学校名)を呼ばれたら礼をしないで速やかにコート中央の入口に移動し、礼をせずにコート内に入る。**演武の前後には必ず礼をすること**。
  - c. 団体形の「よーい、はじめ」や「なおって」については、外部的な合図による同時性として**禁止行為**とする。
- (7) 失格は、**当該競技種目**のみとする。

### 2. 判定方法について

- (1) フラッグによる判定は主審の笛の合図によって5名の審判員(決勝戦は7名)が同時に旗判定(引き分けなし)を行い、勝敗の判定は、**コート係**が行う。
- (2) 過半数の票を獲得した競技者が勝者となる。
- (3) 予選の得点で同点であった場合は、**第2指定形**で再試合を行う。

## 組手 競技規定

## 1. 競技時間及び勝敗について

- (1) 競技時間は**2分**とする。
- (2) 勝敗は、**8ポイント差**が生じた場合、又は時間終了の際に得点の多い競技者、同点の場合は先取した競技者、先取がない場合は判定により、又は相手に反則・失格・棄権が課せられたことにより決められる。  
同点の場合は、審判全員による判定で勝者を決定する。  
(団体競技では、引き分けと宣告し判定は行わない)
- (3) 団体競技は、**規定の過半数の選手(3人)**で成立する。但し、オーダーは先鋒から詰めて、**欠員は後尾**からとする。
- (4) 団体競技に於いて、**登録されたメンバーの枠内**で各回戦毎の選手交替は出来る。  
但し、各回戦毎にオーダー票を提出すること。提出後の変更は認めない。
- (5) 団体競技に於いて、5人の勝敗が同数の場合、ポイント数により判定を行い、ポイント数も同数の場合は代表決定戦を行う。(代表決定戦は、個人戦と同様に行う)
- (6) 団体競技では、1・2回戦は**先鋒から大将まで全ての試合**を行う。3回戦以降は、団体戦の勝敗が決定した時点で終了とする。
- (7) 一度棄権した選手及び失格となった選手は、以降の組手競技には出場できない。
- (8) 「やめ」の後の技に副審が2本以上旗を挙げた場合、監査が笛を吹いて無効にすることができる。

## 2. 組手競技に於ける危険回避(事故防止)のための遵守事項

- (1) メンホーは皮膚の一部であり、メンホーの開口部に手を入れたり、掴んだり、押したりそれに関連する動作は全て禁止とし、ペナルティが課せられる。
- (2) メンホーなど安全具の装着は仕様に従い、しっかりと装着すること。

## 3. 禁止行為の確認

- (1) カテゴリー1(CI)については、**カデット&ジュニアのルール**とする。
- (2) 個人戦において、カテゴリー1での勝ち回数は2回までとする。
- (3) 掴んだまま、何度も不十分な攻撃を繰り返すことは、カテゴリー2の違反である。
- (4) 「無防備行為」とは、次のような状態をいう。
  - a. 攻撃の直後に顔を背ける。(下を見たり、審判の方を見るなど)
  - b. 相手を見ずに突っ込む。(頭を下げて突っ込むなど)
  - c. 反撃を防御出来ないような攻撃をする。
- (5) 逃避行為
- (6) **10カウントルール**を採用する。  
倒れた選手が10カウントで立ち上がれない場合は、審判団より反則・棄権・失格を決定する。

## その他の注意事項

- (1) 競技中に競技者からのタイムの要求はできない。
- (2) 競技者が定位置に戻るときは速やかに戻る。だらしない態度や行動をしない。
- (3) 競技者が定位置に立ったときは、完全に静止し主審の合図を待つこと。
- (4) 競技者がポイントを取ったとき、又は勝ったときのオーバーアクションやガッツポーズを禁止する。(監督や待機選手も同様とする)
- (5) 組手競技において、反則行為をした競技者は主審の宣告の後、一歩前に出て相手選手に一礼をすること。
- (6) 競技者が試合コート内で円陣を作り氣勢を上げるなどの示威行為を禁止する。
- (7) 形競技において、「決まった」などの掛け声は自粛する。(応援は拍手で行う)
- (8) 競技者が道衣の上に衣類を着用する場合は、だらしない着方をせず、競技開始時には速やかに脱ぐこと。

## 引率・監督・コーチ

- (1) 引率責任者・・・選手の全ての行動に対して責任をもつこと。
  - ①団体の場合は、校長が認める該当校の職員とする。
  - ②個人の場合は、校長が認める学校の職員とする。
- (2) 監督・コーチ・・・あらかじめ届け出されたものに限る。

校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険(スポーツ安全保険など)に必ず加入していることを条件とする。また、監督は(財)全日本空手道連盟の会員登録者であること。
- (3) 監督の服装は、選手と同様の空手道衣を必ず着用(県名・校名を入れる)し、右上腕部に「監督」の腕章をつける(腕章は各校で準備すること)。だし、監督が大会役員を兼ねている場合はこの限りではない。
- (4) 故障者については、監督の責任で出場を取り止めること。